

産業経済常任委員会 行政視察報告

1、実施日 平成26年10月23日(木)～24(金)

2、視察先及び目的

- (1) 大阪府岸和田市(道の駅 愛彩ランド)
道の駅による地域活性化について
- (2) 大阪府貝塚市
議員提案による空き家・空き地等適正管理に関する条例の制定について
- (3) 神戸市中央区(神戸港湾事務所)
港湾行政の概要および国際物流の動きについて
- (4) 神戸市灘区(大阪湾広域臨海環境整備センター)
廃棄物の最終処分状況について

3、視察参加者

委員長	赤祖父裕美
副委員長	立入 善治
委員	矢野 進次
委員	山本 吉宗
委員	鵜飼八千子
同行	建設経済部長 市民環境部長 特定地域整備室長
随行	議会事務局

(1) 道の駅 愛彩ランド

事業主体は「いずみの農業協同組合」で駅内には農産物直売所や地域の食材を活かしたレストラン、農産物加工所や学びの体験交流館もあり、「岸和田らしさ」を内外の人々に伝える交流拠点を目指した施設です。

農産物直売所の営業時間は 10:00~18:00 で、販売数量はレジでカウントし、その在庫状況をメールにて生産者に連絡して補充をしています。みかんの生産者だけで約 120 人。売れ残った商品を毎日引き上げ、新鮮な商品を新たに陳列しています。人気の「みかん」をはじめ、もも、たけのこ、みずなす。売り上げは土日で約 700 万円~800 万円。交流スペースでの調理教室や地域の旬の食材を使ったビュッフェはとても人気で、この日も多くの方々が賑わっていました。

新鮮な食材や女性や子供が行きたくなるようなアイデアが大切ではないかと感じました。



(2) 議員提案による空き家・空き地等適正管理に関する条例の制定について

南海貝塚駅周辺を中心に空き地・空き家が数多く存在し、長年にわたり管理がされない状態が続き、議員にも多くの苦情がよせられていたが、地主との関係も難しいことから、解決に至らず、議員からの条例提案となった。

議員からの幾度となる一般質問の末、議員側の提案に対して、執行部もともに協力しながら進めて行くとの回答を得、条例提案にいたる。

条例制定に向けた取り組みとしては、平成 23 年 12 月に議員 4 人で市内を視察、現状を把握し、顧問弁護士のアドバイスを聞き、幾度となく相談をしながら、条例案を作成していった。市長や警察に協力依頼をした後、本会議に上程。結果賛成多数により可決した。

反対の理由としては、条例制定にあたり、パブリックコメントを実施して広く市民の意見を聞くべきである。また、条例提案までの期間が短い等の理由があった。また、地方自治法第 14 条に則って罰則として、過料 5 万円とした。現在も実態調査やルールづくりなどに取り組んでいる。

「この条例が制定されて、懸案事項である空き家の改善は見られたか」の質

疑では、「未だ改善は見られない」との回答。今までに5万円の過料の徴収には至ってないとのことでした。また、「空き家の撤去費用が負担となるが、この対策について」の質疑では、「国の補助金制度の活用を検討している」との回答で、市単独の補助金はないということです。

まとめとして、この条例が出来たことで意識は高まったが、実際に行政代執行にはいたっていない。議員提案ということで、先進地等視察を始め、弁護士と打ち合わせを重ね、議員が一丸となって市民の声にこたえる姿勢は素晴らしいものがある。衛生面からも区長からの苦情が絶えない私有地の草刈りや木の伐採。少子高齢化、人口減少に向かっていく中、本市においても重要な課題である。今後もさまざまな取り組みを調査、研究していく必要があると感じました。



(3) 港湾行政の概要および国際物流の動きについて

神戸港の概要説明と国際コンテナ戦略港湾政策の意義について説明をうけました。神戸港は大阪湾の北西部に位置し、神戸市の地先水面、東西約20kmを港湾区域とする国際戦略港湾です。古くは平安時代に平清盛により開港され、貿易の中心港として日本の経済活動を牽引してきた。現在は大阪港と共に国際コンテナ戦略港湾「阪神港」として一翼を担っている。

○ 港湾貨物取扱量

8721万トン

○ 外貿取扱量

輸出 2224万トン 輸入 2679万トン

○ 主要取扱貨物

輸出 産業機械、染料・塗料など、完成自動車

輸入 石炭、衣料、はきもの、野菜、果物

移出 完成自動車、鋼材、

移入 完成自動車、鉄鉱石、石油製品

○ 国際海上コンテナ取扱量

207万TEU (1TEU=20フィートコンテナ1個分)

輸出、輸入とも、中華人民共和国、アメリカ合衆国が1位2位を占めています。阪神港の目指す姿は、西日本の産業と国際物流を支えるゲートポートとして機能を拡大。国内ハブ機能の再構築、東アジアの国際ハブポートとしての機能をめざしています。最近、神戸港ではコンテナの取扱個数、基幹航路の寄港便数は減ってきているのが気になりました。湖南省でも現在、内陸型国際物流ターミナル構想を打ち出している。湖南省が阪神港と滋賀県の東部地域の物流拠点になり得るのか。企業誘致を含んだまちの活性化を今後も模索していく必要があると感じました。



(4) 大阪湾広域臨海環境整備センター（大阪湾フェニックス計画）

私たちのゴミは最終どこへいくのか？

私たちは地球環境を守り、より豊かな生活を実現していくため、互いに力を合わせて、廃棄物の発生抑制、再生利用をおこなっていかなくてはなりません。高島市が基準値より高いダイオキシンを含む廃棄物を神戸へ送ったということもあり、湖南省から出されたゴミは、最終どこへいくのか見届けたい思いで視察研修を行いました。近畿2府4県168市町村の受入区域から発生した廃棄物を受け入れています。尼崎沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場に分散され、湖南省のゴミは神戸沖埋立処分場に運ばれています。ゴミは最終的に黒い灰となり、思ったほど匂いはありません。また、海水に埋め立てられていきますが、水が汚染されないように、浮体式の排水処理施設で濾過され、海へ放出されていました。環境保全対策として、周辺海域の生態系を育み、環境がしっかり守られていました。平成39年には、この施設もいっぱいになってしまうとのことで、あらためて、ゴミの減量に心がけようと思いました。

